

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 9月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100173		
法人名	医療法人社団 あかしあ会		
事業所名	グループホームあかしあ落合		
所在地	広島県広島市安佐北区落合南4丁目4 1-2 1 (電話) 082-845-3070		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100173-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年8月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしい生き方を考え、笑顔が多く見られるように興味のある事を提供します。現在の能力を維持するために生活リハビリ・運動・散歩・外出をし、四季を肌・目・耳・身体全体で感じて頂き、メリハリのある生活を送って頂けるよう心がけています。また看取り介護も行っており最後まで自分らしく穏やかに過ごして頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この1年間の特徴的な取り組みとして、第一に、「自力支援に向けた支援」の深化がある。即ち、排泄の自立支援に関しては、生活リハビリを基盤として車椅子の自操や、なるべく手すりを持って自力又は必要最小限の介助で立つてもらう。するとスムーズに立てなかった利用者の立とうとする意欲や能力の維持・改善に繋がる。将来的に、出来ることが出来なくなってしまうような生活支援に取り組んでいる。第二に、「水分確保の支援」の深化がある。即ち、生命の源である水分をどう確保するかを職員間で検討し、レクや散歩等、活動後に摂取量が増えることから、水分のIN・OUTを評価して、コップ一杯（120cc）を基準に1日1500ccを目標として支援した結果、平均1000ccを超えることが出来た経緯がある。昼前に前半の摂取量を確認し、午後にその補充・調整をするようにしている。第三に、「季節を感じてもらう外出支援」にも取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域とのつながりを大切にしながら、人生の先輩として敬意、尊敬をもち、かつ日々よりよいサービス、個人個人その人らしく生活できる事を念頭におき、理念としています。	開設時に職員で作成した理念を、所内に掲示し、常に確認出来る環境下で、ケアを実践する上での立ち返るべき原点として職員間で共有している。自力のできる生活の維持、即ち、「自力」支援に取り組んでいる。又、理念を踏まえ、職員個人の年間目標を設定し、半期毎の個人面談で理念の達成度を振り返り、実践に繋げるべく気づきを促している。	開設から8年を迎え、新たな体制に即した理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に事業所で分り易い具体的な年間行動目標・計画を設定し、定期的に達成度を検証・記録する案等、評価の検証過程を「可視化」することで、職員間の認識を共有化し、理念の深化・定着を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会行事（とんど・盆踊り・秋祭り等）への参加を積極的に取り入れています。散歩等で地域の人にあった場合挨拶を必ず行うようにし、交流できるように努めています。	日頃から近隣の散歩で挨拶を交したり、運営推進会議で情報交換して、とんど祭り等の地域行事に参加したり、事業所の餅つきへの参加案内や臼を借りたりして、地域交流を深めている。又、歌のボランティアや秋祭りでの子供神輿訪問・中学生の職場体験等、地域との相互交流・世代間交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加することで、地域の方とご利用者様との関わりを大切にしています。地域の方が訪問しやすい環境を作り、認知症のご利用者様を知って頂けるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事故やヒヤリハットの報告も行い、意見を頂きサービス向上に活かしています。地域のイベントを教えて頂き外出レクに取り入れています。	運営推進会議は、定期的に開催され、時に利用者・家族・地域包括支援センター職員が、又、地域住民代表として、ほぼ毎回町内会長・民生委員が参加している。事業所の現況・行事報告と共に意見交換が行われ、地域包括支援センター職員から熱中症対策の助言があり、職員にも注意喚起した経緯がある。	利用者の参加が増えたり、不参加家族との情報共有のため議事録送付等の工夫もなされている。しかし会議への家族参加は少なく、活発な意見交換の場とは言い難く、会議の活性化のため、事業所行事と会議の同日開催案等、日時調整により、できるだけ多くの家族の参加が得られるよう、更なる工夫を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	隔月開催の運営推進会議には、地域包括支援センター職員のほか、安佐北区介護保険課の職員にも開催・出席を呼びかけ、ご都合に応じて参加を得ています。毎回、会議記録をFAX送信し、欠席時の協議内容を報告しており連携は取れていると思います。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加し、情報共有を図ると共に、区担当者に開催報告書の提出や議事録送信・会議への参加依頼等を通じて、関係構築を図っている。又、行政主催の虐待等の外部研修に参加したり、生活保護に関しても担当課職員が定期的に訪問する等、連携強化が図られている。	

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、毎月開催のフロアーミーティング、日々の引継ぎ時などで、具体例を挙げて身体拘束とみられかねない行為などについて指摘、指導や確認など行っています。3点ベッド柵や拘束バンドは使用していません。	事業所で身体拘束排除マニュアルを策定し、内部研修を通して、職員は「拘束はしない」必要性を認識し、毎月のユニット会議や申し送り等で、具体的な事例を通してその検証を行い、職員間の折り合わせにより意識統一を図っている。又、玄関は安全のため施錠しているが、散歩に寄り添う等の外出支援を進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修には積極的に参加し、その場で学んだことはフロアーミーティングの場で報告し、全職員が共有できるようにしています。また、入浴介助の際にはご入所者の身体に不審な傷・痣等ができていないか必ず確認をして報告しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者がご利用者様の状態把握をすることで家族と制度利用について話ができる状態である。後見人制度等については管理者が説明できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、細かい仕組み、体制、費用などについて、書類を読み上げて説明しています。特に健康管理や重篤時の対応などは丁寧にご説明し、ご理解・ご納得をいただけるよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご入所者様と接する中で細かい要望なども積極的に聞き出して、出来ることから応えるように心がけています。またご家族のご来所時には、我々への要望・思いや苦情等は、積極的に管理者にて機会を設けてお聞きするようにしています。	利用者の要望は、職員との会話を通じて把握し、連絡ノート等でそれを共有している。家族とは電話連絡や面会時、介護計画更新時等で聴く様に努め、その意見は連絡ノート等で共有している。家族からの要望により、利用者がいつも同じ衣服を着る事のないように、洗濯した衣服の収納方法を工夫した経緯がある。	

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から、意見を出しやすい雰囲気作りに心がけて月一回のミーティングで、職員の意見を聞く機会を設けています。	毎月の職員会議、排泄等の各種委員会、毎日の申し送りや半期毎又は随時の個別面談等を通し、意見を聞く機会を設け、必要があれば業務日報等で共有して、介護方法・業務上の提案や個人目標等に対する支援体制をとっている。職員からの提案で、食事形態を刻み食に変更したことで飲み込みが改善した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスを導入しており、管理者及び職員の目標や実績、勤務状況を把握して職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	機会をみて外部研修に参加したり、資料の回覧をしたり、社内のミーティング時に研修会を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会等に参加し、同業者との交流を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に担当ケアマネジャーから情報を頂き、管理者・ケアマネ・フロアーリーダーで面談を行っています。ご本人やご家族に今までの暮らしぶりや習慣など伺いながら不安、要望等を傾聴し安心して頂けるよう努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にはご家族と面談を行って話を伺うようにしています。ご要望に対して柔軟に対応できるよう心掛けるとともに、出来ること出来ないことについても説明し、不安がないように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者としっかり関わりを持ち、言葉や態度、表情などから不満や不安を読み取るよう努力しています。またご家族が何でも話していただけるような関係作り、雰囲気作りに努め、行事等に参加していただいた時には感想やご意見を伺うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、後片付け、掃除、洗濯干し・たたみ等、利用者様が出来る事は積極的に声掛けをし、職員と一緒にいき家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には本人の日々の状況などをお伝えしながら、情報交換を密にして、一緒に本人を支えていく人間関係を築く努力をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力を得て、外食・墓参り・毎週自宅に帰り泊まる等、一人ひとりの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしています。	利用者との会話や生活歴を参考に、外食・毎週の外泊等を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と、何気ない日常を楽しめるように支援している。家族の協力で同窓会に出席したり、昔の仕事関係の友人の訪問や絵手紙の授受等の例もある。それらの情報は日報・連絡ノート・ホワイトボードにて共有している。	

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様同士の関係を勘案し、食事の席やレクリエーションの席等を配置しています。利用者同士がトラブルになりそうな時は、職員が中に入ったりと臨機応変に対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、必要に応じて相談を受け、少しでもお力になれるよう努力しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の嗜好に合わせ、事業所の外での喫煙や、ノンアルコールビールの提供など、できるだけ本人の希望や意向に沿った対応を行っています。こちらのペースでなく、本人様のペースに合わせるよう努めています。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、普段から入浴やレクリエーション等を通じて話す時間を作り、その方の行動を理解する様努めている。それらの情報は「連絡ノート」に残し職員間で共有している。意思疎通困難な利用者には理解して頂けると思っ て声掛けをすると表情で応えて頂ける。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・友人などの面会時、少しずつ昔のお話を聞き把握する様に努めています。日常の会話の中で回想する事により、個々の生活歴などの情報を把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の変化や新しい気付きなどを記録に残し、毎日朝夕の申し送りの中で伝え合い、フロアーノートも活用して日々情報収集を行って職員全員が共有できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者毎に担当者を決め、3ヶ月に一度モニタリングを行っています。ケアカンファレンスは更新時・利用者の状況変化時に行い、その際には、管理者・介護支援専門員・家族・職員が話し合い、要望を取り入れてケアプランの見直しを行っています。	利用者毎の担当職員が情報収集し、原案作成は管理者・計画作成担当者が行い、面会時に家族の同意を得て本案としている。担当職員が3か月毎にモニタリングを行い、管理者等が集約し、計画を見直す。尿意頻回な車椅子の利用者にフロアを自操する事で意識を逸らせ、排尿間隔の延長と体力作りに繋げた例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌や生活記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	買い物や外食、お花見や紅葉狩りなどの外出支援を行っています。訪問理美容や利用者によって訪問マッサージを受けておられます。ご本人の希望で新聞を取っている利用者もおられます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で、町内会長や民生委員の方達から地域の行事などのお話しをお聞きし参加出来る時はしています。また地域の中学校から、職場体験としての受け入れ等も行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、協力医の説明を行うと同時に本人様のなじみのかかりつけ医を設定されることも自由なことも説明しています。協力医の訪問診療は月2回、必要時や緊急時は常に連絡が取れる体制が出来ています。又、定期的な訪問歯科の口腔ケアも取り入れています。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医とし、協力医から月2回往診があり、専門医の受診は家族に依頼している。医療連携により週1回訪問看護師の来訪があり、利用者の健康状態を把握している。又、随時の協力歯科医による往診と相まって、適切な医療が受けられる体制となっている。	

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約をし、定期的に数名の看護師に来て頂き迅速な対応をしています。 夜間帯や休日なども、iPhoneのSNSを利用して、24時間連絡体制がとれるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と入院機関との連携にも努め、すぐに情報提供を行うよう努めております。 定期的に管理者・介護支援専門員が面会に行き、看護師・相談員に状態をお聞きし、早期の退院ができるような対応をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用される時点で、重度化への指針や緊急時の体制などについて、入念にお話させていただいています。ご利用後、状態が悪くなっていく場合は、かかりつけ医師・看護師・管理者と共に、ご家族と今後の重篤時の対処などについて話し合いを行い、承諾書等も頂いています。	利用時に「利用者の重度化及び看取り介護の基本理念」で方針を説明し、意向の事前確認を行っている。看取り対応の際は医師・家族・関係者で話し合い、「看取りの介護計画」に移行し、看取り理念に沿った支援を行っている。今までに数例の看取り経験があり、その際には経験職員を配置する等の調整をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時などは、マニュアルに沿って連絡網で、即時に情報が流れるよう体制をとっています。毎月の職員会議では、これまで発生した事故・ヒヤリをもとに振り返り、改善などについて意見交換をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て年2回、火災避難訓練・消火訓練を実施しています。	消防署の指導の下、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施すると共に防災年間計画を立て、初期消火・消火設備点検等、月毎の訓練項目を決めて短時間の実践的な訓練も実施している。又、町内会長を通して近隣に避難誘導後の見守りの依頼や事業所を緊急退避場所として利用も可能な旨を伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人にあった対応をするため、ミーティングにて、職員間で情報を共有し、誇りやプライバシーを損ねないよう意識の向上に努めています。入浴、排泄等、羞恥心に配慮をして行い、記録物などの取り扱いにも注意しています。	接遇研修等で職員の幅広い知識習得と資質向上を図る体制もある。利用者の意向に沿わない言動は虐待に繋がるとの認識から尊厳に配慮しながらケアに関わり、不適切な対応に対してはサブリーダーを介して指導を行い、気づきや対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。個人情報取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望や思いなどに素直に耳を傾け、また、自己決定できるような問いかけをしています。その中で出来る事は対応し、出来ない事については丁寧に説明しています。場合によっては、管理者や統括者を交えて話し合い、納得を得られるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者のその日の体調等を考慮し、その方の思いや要望をお聞きして、最適な過ごし方が出来るように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、ご本人の好みの洋服に着替えていただきます。化粧品もご本人、ご家族の希望があれば使っていただいています。定期的に理美容サービス（ヘルパー有資格者）に来ていただき、ご本人の希望に合わせてカット・カラー・パーマをお願いしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事作りへの参加はありませんが、時々、ホットプレートを使用の際は一緒に作っていただいて、食器等の後片付けは無理の無い程度に一緒に手伝って頂いています。温かい物は温かい内に、常に美味しく召し上がっていただけるよう提供しています。	法人の厨房で調理された食材が運ばれ、事業所で加熱・盛り付けを行っている。新年会の鍋料理・収穫した芋で芋煮会等の行事食も喜ばれ、調理レクでは利用者は調理等、役割に応じた協力を行っている。外食ドライブも好評で、又、ワンプレートでの提供や残されたご飯をむすびにすると食が進む等の工夫もある。	

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の水分摂取量は、1500ccを目標としています。水分量、食事量を記録し一人一人の咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態にて対応させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行い、義歯使用者は週2回夕食後に洗浄剤にて消毒をしています。また月1回協力歯科の先生に来て頂き、治療についての相談や口腔内のケアをしていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけにてトイレに誘導をしています。また動作・表情などを察知して、トイレ誘導をし、気持ちよく排泄していただくよう取り組んでいます。	排泄記録表や表情・行動から、各人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。利用者の経済的負担も考慮し、安易な紙パンツの着用は避け、布パンツに改善した自立支援にも取り組んでいる。夜間起きていればトイレ誘導等を行うが、良眠優先とする事もある。可動式手すり等の環境整備もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日朝に、カフェオレやヨーグルトを摂取してもらい、適度な運動や散歩でなるべく自然排便ができるように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様の身体状況に応じ個浴、リフト浴を使用しています。又、必要に応じて清拭、シャワー浴等、工夫しながら清潔保持に努めています。入浴を楽しんでいただくため、入浴剤を使用しています。	週2回の午前浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個浴だが、利用者の身体状況を考え、介護用リフトを利用することもある。又、入浴剤で寛いでもらったり、お風呂嫌いの方には対応する職員を替える等、波長合わせを行い、対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	体調や習慣に合わせご本人の ペースで昼寝の時間をとり、休 息して頂いています。夜間の安 眠につながるように日中は、 適度な運動や散歩などを心掛 けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬局と連携を取りながら、薬の 飲み合わせや副作用について説 明を受け支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々で役割をもって頂き、ご利 用者様同士一緒に助け合いなが ら過ごせるようにしています。 たばこやお酒も相談にのって 対応しており、個別の楽しみが 継続できるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	日常的な散歩に加え、花見や紅 葉狩りに出かけたりドライブし ながら昼食やデザートを食べに 行くなど、普段行けないような ところへも希望に沿いながら 出来る限りの外出支援を行って います。	普段から希望により、少人数で 近所の散歩を楽しんでいる。と んど祭り等の地域行事に参加し たり、家族の協力で外泊・墓参 り等に出掛けたり、季節行事と して初詣・菊花展・芋掘り・折 り鶴奉納等、普段は行けないよ うな所へ外出し、「非日常」を楽し むこともある。又、フードコート 等のグルメツアーも好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	本人様が金銭を保管することは トラブルにつながるのでは、ご 家族様にその旨をお伝えし持 って帰っていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目（ さくらフロアー・ひまわりフロアー ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分から手紙を出されたりされることはないが、届いた手紙はご本人に手渡しています。電話がかかって来た時はご本人に代わり、お話しして頂いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室や共用部分は常に清潔にし、温度湿度管理を行い、気持ちよく過ごして頂けるよう配慮しています。	フロアには季節毎に利用者で作った塗り絵等の「壁掛け作品」や外出行事の写真を飾り、季節を感じる空間となっている。又、毎日空調管理表で温・湿度を調整し、快適な生活環境となっている。更に高さの異なる２種類のテーブルを設え、食事中はテレビを消しＢＧＭを流して、食を味わえる環境面の配慮もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置き自由に座って頂ける様にしています。隣のユニットへも自由に行き来出来るようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、好みの物や自宅で使用されていた馴染みの物を持って来て頂くようにし、居室が落ち着く場所になるよう配慮しています。	居室はフローリングの１室を除き、全て畳敷きであり、ベッド・エアコンは備え付けだが、中には布団を使用される方もある。居室前には、自室を確認し易い様に異なる色の半円の目印と手書きの表札がある。利用者は使い慣れた鏡台や編み物等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるよう、廊下やトイレに手すりが設置してあり、安全面に配慮しています。居室やトイレが分かるように、ネームプレートを使用しています。		

V アウトカム項目(さくらフロアー・ひまわりフロアー) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあかしあ落合

作成日 平成30年10月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の参加が少ない	早めに行政等に連絡をし出席してもらえるようにする。 ご家族様にも出席をお願いする。	早めの報告・連絡。 行事の時の同時開催等の検討。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。